



株式会社  
大和ソフトウェアリサーチ

## 電源や温湿度、ラックの施錠までを統合監視 管理負荷を軽減することにより、低価格で高品質な アウトソーシングサービスを支える

株式会社大和ソフトウェアリサーチは2007年、東京都内に同社2カ所目となるデータセンターを開設した。環境監視装置やラックマウントPDU、リモート監視可能な電子錠などを導入し、統合管理製品「InfraStruxure Central」を利用して既存データセンターからリモート運用している。現地での管理負荷を最低限に抑えることでコストを軽減、高機能低価格なアウトソーシングサービスを実現している。



千葉 システムサービスセンター



株式会社 大和ソフトウェアリサーチ  
システムサービスセンター  
センター長  
上新 英浩 氏

### ■ 背景

- ・顧客ニーズに応じた新データセンター構築
- ・低コスト高品質サービスのための管理負荷軽減
- ・リモートからのデータセンター管理運用

### ■ 導入コンポーネント

- ・ラック型分電盤 × 2台
- ・NetShelter® SX × 40本
- ・Switched Rack-Mount PDU × 34本
- ・Environmental Management System × 34台
- ・NetBotz® Rack Monitor 200 × 6台
- ・NetBotz® Rack Access PX-HID × 6台
- ・InfraStruxure Central Standard × 1台

### ■ 導入効果

- ・監視装置と統合管理製品によるリモート運用
- ・管理負荷軽減による低コスト化
- ・可視化された環境情報を顧客にも提供

### 顧客ニーズの変化に応じた 新データセンター開設へ

株式会社大和ソフトウェアリサーチ(以下、DSR)は、ITに関わるアウトソーシングビジネス全般を手掛けている。企業のITと言えばメインフレームと専用線だった40年から運用委託の業務を行っており、現在では2カ所のデータセンターでハウジング、ホスティングやそれに付随する運用サービスを提供している。

2カ所目となる東京都内のデータセンターが開設されたのは、2007年のこと。ユーザーからの要求やビジネス環境が変化してきたためだ。サーバーを設置する場所自体の安全性や、より高い可用性と安定性が求められるうえに、コスト意識も高まる一方だった。ただ単に安全な場所に設置されていればいいだけではなく、ラックマウントサーバーやブレードサーバーによりラック内の高密度化が進んできたことから、温度や湿度などの動作環境に気を配ることが求められ始めていた。

### 高機能低コスト実現のために リモートからの統合監視が大きな効果

管理負荷はそのままコストに直結し、それはサービス価格に反映される。良質なサービスを低価格で提供するためには、低い管理負荷で運用できるデータセンターを構築しなければならない。こうした考えに基づき、東京都内のデータセンターは構築された。開設に当たっては、サーバー設置場所の安全性や動作環境にも十分に配慮した設計にするなど、それまでの運用業務で得られたノウハウが存分に活かされたと、システムサービスセンターセンター長の上新氏は語る。

「新しく開設するデータセンターでは細かい環境監視を行なうべきだと考えました。さらに、平常時は現地に常勤スタッフを配置せず既存データセンターからリモートで運用し、コスト削減も追求することになりました」

これらを実現するためのファシリティを求めて、上新氏は情報収集を行ない、APCにも相談を持ちかけた。当初はラックベンダーの一候補と考えてのコンタクトだったが、コンタクト後に総合的にIT物理インフラを提供するベンダーだと知った。APCにはリアルタイムで消費電力を計測できるラックマウントPDU、温度や湿度を監視する環境監視装置、リモートから状況を把握できて解錠や施錠操作も可能な電子錠、さらにこれらをひとつのインターフェイスで統合管理する管理製品InfraStruxure Centralが揃っている。「当初は、ラックはラックベンダーから、監視装置は監視装置のベンダーから、個別に調達した製品を組み合わせ



大和ソフトウェアリサーチのサーバールーム



株式会社 大和ソフトウェアリサーチ  
システムサービスセンター  
コンサルティンググループ  
技師  
関 達也 氏

データセンターを構築するつもりでした。これらを1社で提供できる総合ベンダーを知らなかったからです。1社で提供いただける上、多くの情報をひとつのインターフェイスで可視化する統合管理製品を持っているのは大きな魅力でした」

上新氏は製品選定時をそう振り返る。個別ベンダーの製品を組み合わせると同じ環境を構築した場合、管理者はいくつものインターフェイスを使い分け、そこから必要な情報を得なくてはならない。InfraStruxure Centralならひとつのインターフェイスだけでデータセンターの状況を把握でき、管理負荷は低く監視に伴う見落としも大幅に軽減できる。

#### 電力消費量など環境の可視化により 顧客のIT拡張を無駄なく計画的に

ビル全体がデータセンター用途に作られているため、空調や電源装置はすべてフロアに備え付けのものを利用するが、それ以外のファシリティはAPC製品で統一されることになった。APC製品についてのレクチャーを受けた上でDSRから機能要件を具体的に提示、それに対してAPCからの確かなソリューション提案が行なわれたため、構成はスムーズに決定できたと、システムサービスセンターコンサルティンググループの技師、関 達也氏は語る。

「ビジネスの拡大に合わせて投資をしたいという要望があり、ラック列単位で増やしていける仕組みを希望していました。APCさんはしっかり意図を汲んでくれて、分電盤や監視装置などを含めた機能を列単位のパッケージとして提案してくれました。おかげで、必要なときに最低限の投資で規模を拡大できるようになりました」

東京データセンター開設から2年を経て、今ではフロアも拡大し、何列にもラックが並んでいる。APCの製品ラインナップの変更に伴う小変更はあるものの、拡大のたびにほぼ同じ構成で追加導入しているため、ラックスペースの拡張に大きな負荷は伴わないと関氏は言う。初めから統



環境監視およびケーブルマネジメント製品



NetBotz Rack Access PX-HID : 電子錠

合管理製品を導入しているため、顧客増加と管理負荷増加は比例せず低い負荷で運用できているのも、当初の目論見通りだと上新氏も胸を張る。

「管理負荷は増えず、できることだけが増えたという印象です。それらは当然サービス向上に反映されています。たとえば環境の可視化によりそれぞれの顧客に対する説明が明確になりました」

これまではエンジニアの勘と経験に基づいてラック増設を提案していたが、空きスペースが残っているのに電力消費量に余裕がない場合などは拡張の必要性を理解してもらいにくかった。今では温度や湿度、特定期間における電力消費量、さらにはラックの開閉履歴など、サーバーがどのような環境で運用されているのかをデータとして顧客に渡せるようになったため、明確な論拠を示せるようになった。顧客はそれに基づいて無駄のない拡充計画を立てられる。

「自社で使うのではなく、サービスとして第三者に提供しなければならないので使用機器の選定にはこだわりが必要です。APCは環境監視から統合管理製品までを1社で揃えられる製品ラインナップと品質の高さで、期待にしっかり応えてくれました。今後も我々のビジネスを支えてくれると信頼しています」

ラックから監視装置、統合管理製品まで幅広くカバーするAPCのソリューションへの期待を、上新氏はそう語ってくれた。

#### 株式会社大和ソフトウェアリサーチ

- 会社情報 : システムコンサルティング、設計から保守運用管理までのトータルサービスを行なうITサービス企業。大型汎用機からPCまで幅広く対応し、WAF(Web Application Firewall)販売およびホスティングサービスも提供する。また教育やヘルプデスクなどの付随サービスも手掛ける。
- 所在地 : 〒102-0083 東京都千代田区麹町1丁目5番2号
- 設立 : 1969(昭和44)年
- URL : <http://www.dsr.co.jp/>

#### シュナイダーエレクトリック株式会社

〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-6 オアーズ芝浦MJビル  
TEL : 03-5931-7500 FAX : 03-3455-2030  
E-Mail : [jinfo@schneider-electric.com](mailto:jinfo@schneider-electric.com)  
[www.apc.com/jp](http://www.apc.com/jp)  
[www.schneider-electric.com](http://www.schneider-electric.com)